



News Items from Abroad

Amazing Grace

July 20th 2006 started like any other day at Liberty County Animal Control in Hinesville Georgia. All the animals were shoved into a stainless steel box which was then filled with a lethal dose of carbon monoxide gas. The staff waited for the frantic screams to subside and then disposed of the bodies. This operation occurs in over ten states in the US and in every prefecture in Japan, cruelly killing hundreds of thousands of unwanted animals annually. However the dose isn't always lethal. However on this Thursday when the door to the chamber was opened to remove the bodies of four dogs, the staff discovered one dog still alive! Covered in blood and feces of the dead dog above her was a hound mix shaking uncontrollably. The staff quickly rushed the dog to a nearby vet clinic where she was given a shot and massive fluids to stabilize her and the dog responded well. She went home that night with one of the clinic staff for observation. Miraculously she shows no signs of lasting damage and is even quite social and friendly. Named "Amazing Grace" she has found a new home where she will be loved and cared for the rest of her days.

While this dog's story has a happy ending, it raises the question of how many others are there who survive this cruel death? Carbon monoxide poisoning is the method of choice for almost every hokusho in Japan, despite all the terror that it inflicts upon those who die this way. ARK is against the killing of any healthy rehomeable animal by the authorities, but if it is unavoidable it must be humane. Euthanasia by lethal injection is the most humane and painless method.

無責任な「衝動飼い」はやめよう——ペット業者も十分な説明を！

「シベリアンハスキーは、美しく賢い犬だが、必ずしも一般向きとはいえない。脱毛がはげしく、こまめにブラッシュをかける必要がある。退屈しやすく、多くの運動量を要する上、暑い気候には適応しにくい。」——出版物やホームページからは、このような情報が得られますが、新作ディズニー映画「Eight Below」のDVDを買うと、中に同種の説明書が入っています。「Eight Below」は南極大陸で自力で生きのびることを余儀なくされた8頭のソリ犬の物語。その下敷きになって

2006年7月20日、米国ジョージア州ハインズヴィルの「リバティ・カウンティ動物管理局」の一日は、この日も、いつもと同じように始まりました。動物たちが次々とステンレス製ボックスの中に詰め込まれ、そこに、致死量の一酸化炭素ガスが送りこまれます。職員は、断末魔の悲鳴がおさまるのを待って死体を始末します。この作業は、全米の10を超える州で行なわれ、日本では全都道府県で実施されています。毎年、何十万、何百万という動物が残酷な方法で命を奪われていきます。ところが、投与されるガスの量が不十分で、時として、死に至らないことがあるのです。この日、4頭の死体を片付けようと職員がガス室の扉を開けると……何と、1頭の犬がまだ生きているではありませんか！上に乗った犬の血と糞にまみれて震えがとまらないのは、ハウンド系の雌。犬は、直ちに、近くの動物病院に運ばれ、注射と大量の点滴処置を施された結果、好反応を示しました。その夜は、施設に連れ戻って、クリニック

の職員が付き添い、観察にあたりました。「奇跡の生還」を果たした彼女は、深刻な後遺症もなく、今では、きわめて社交的でフレンドリーな犬として暮らしています。「アメージング・グレース」と名づけられて「養子」先も決まりました。今後は、新しい家庭でかわいがられ、幸せな余生を送ることでしょう。

話はハッピーエンドに終わったとはいえ、この残酷な「処刑」から奇跡的に助かるケースもあり得るとは……恐ろしい問題です。一酸化炭素による殺処分は、動物を苦しめる虐殺行為にもかかわらず、日本中のほとんどの保健所で採用されています。アークは、里親にめぐり合う望みのある健康な犬を行政当局が殺すことには反対します。しかし、どうしても、それが避けられないとすれば、せめて、人道になかったやり方をとるべきです。致死量の薬物注入による安楽死こそが、苦痛を与えない、最も人道的な方法なのです。

いるのは、1958年、日本の南極観測隊に同行した犬ジロとタロの物語で、「南極物語」として映画化されたもの。1983年に映画が公開されるや、日本の気候がこの犬種に不向きであるにもかかわらず、全国的に「ハスキーブーム」が巻き起こりました。今回、ディズニーと全米ケンネル・クラブがDVDに注意書きをつけたのは、過去の例にあったように、映画を見た人が衝動的に動物を買うのを防ぐためです。1996年に「101 Dalmatians」(邦題「101匹わんちゃん物語」)が公開されると、白に黒のプッチ模様が特徴的な子犬に魅せられて、よく調べもせず、ペットショップに駆けこんで、ダルメシアンを買った人がなん

と多かったことか。実は、ダルメシアンは、血気盛んな犬種で、運動が足りないと破壊的な行動に走ることも……彼らの「末路」は、シェルタに収容されるか、捨てられてしまう確率が高いのです。日本の役所は十分に注意すべきでしょう。最近、国は、「ペット飼育者の責任について客に十分な説明をする」ことを売り手に求める考えを示しています。行政当局がこの計画を進めるにあたり、お望みなら、アークが経験者として協力いたしましょう。私どもは、巣立っていく「小さな命」をまもるため、16年間にわたり、このような助言を行ってきたのですから。